

秋桜だより

第22号

平成23年4月1日発行

埼玉純真短期大学

秋桜会

秋桜会事務局

会長あいさつ

第八期生 会長 小林 ひかり

秋桜（同窓）会員の皆様におかれましては、お元気で多方面あらゆる分野で、ご活躍のこととお慶び申しあげます。

秋桜会員数は、今春二十七期生を迎え六、二七〇名に至っております。

この会報（秋桜だより）も二十二号の発行となりました。少ない役員で試行錯誤しながらも、皆様に喜んでいただけるような会報作りを毎回心がけています。

さて、前回の秋桜だよりにも載せていただきましたが、今まで年に一回発行し皆様のお手元にお届けしていた秋桜だよりですが、この二十二号からは希望者の方への送付とさせていただきます。しかし、新卒（その年の三月の卒業生）新規秋桜会会員の皆様へは、全員送付いたします。次回からの会報送付希望の有無については、同封いたしましたはがきにてご回答ください。大学のホームページ（卒業生のページ）へは、昨年同様掲載いたします。

このような措置に至った理由としましては、秋桜会会員は、毎年卒業生からそのまま秋桜会会員へとスライドしていきます。そのため、会員は毎年増加していく傾向にあります。昨年までのように、秋桜会会員の皆様への配布を続けていった場合、印刷費、発送料の経費負担が増えるばかりとなり、積立金が枯渇する

ことになり運営するのが危ぶまれてしまうためです。会報發送くらいで経費が無くなるの？とお思いなられる方もいらっしゃると思いますが、毎年のことになりますとかなりの経費負担となります。長く秋桜会を存続させるための措置ですので、ぜひともご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

秋桜会の運営は困難な事態になってはいますが、一方で、同窓会活動の必要性は高くなってきているように思います。職場や家庭、それぞれの状況下でもいつも順風満帆とはいかない日々が多いことと思えます。一人でどうして良いかわからないこともあると思います。そんな悩みや困ったことがあった時には、ぜひ秋桜会をたずねてみてください。たくさん先輩や同窓の仲間が手を差し伸べてくれることでしょう。互いに助け合い、励まし合うそのような秋桜会でありたいと思います。

ここで、私の好きな言葉『ありがとう』という言葉について、お話いたします。

私は、『ありがとう』という言葉が大好きです。特別に良いことが起こった時に、幸せを感じるのには当然です。でも、思いどおりにいかないことの方が多いかも知れません。ですから、嫌なことに巻き込まれたり、ひどい目にあっても幸せ、当たり前のこととが幸せ、と思える自分があるかどうか。「ありがたい」、「喜んで」、「おかげ様」と感じられる自分を作っていくと、生かされていることがありがたいと感じられるようになり、苦しいことも、きつと私への教えなんだと思うように心がけています。この春気持ちを新たに、また、感謝の気持ちを忘れずに前進していきたいと思っております。秋桜会の会長を引き受けている今日、たくさんの方の経験やたくさんの方

との出会いをさせていただいている状況に、心より『ありがとう』と感謝の気持ちで頑張ります。

今年も、春の暖かな時期に純真祭と合わせて『秋桜会総会』を行います。例年どおり、親子で楽しめるふれあい遊びや幼稚園や保育園で役に立つ遊びなどの紹介をします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。また、秋桜会の仕事を手伝っていただけ役員の方には、純真祭へお越しの際、私、もしくは他の役員の方にお声かけいただけたいと思います。最後に、会員の皆様のご発展、ご健勝を心より祈念いたしました。挨拶にかえさせていただきます。



学長あいさつ

学長 藤田 利久

同窓会（秋桜会）のみなさま、いかがお過ごしでしょうか？

松尾芭蕉の「奥の細道」は「月日は百代の過客にして行きかう人もまた旅人なり」で始まりますね。中学時代に国語の先生から「高校入試に出るから、源氏物語や平家物語と一緒に最初の書き出しの文は憶えておけ」と言われて、十分な意味も解らず憶えたものでした。

毎年、四月に入学生を迎え、三月に卒業生を送り出すたびに、この一文が頭をふとよぎります。ほんとうに月日の過ぎ行くのは速いものですね。多くの学生が卒業して、新たに多くの学生が入学して来る様子はまさに「行きかう旅人」かもしれません。

卒業された皆さまが同窓会の総会や研修会などで

本学に戻ってこれられることは本学としては、この上ない喜びです。特に、「母の卒業した埼玉純真短期大学にどうしても入学しなかったのです」などと入学希望の卒業生のお嬢様から話されるとなおります。

本学も昨年度の入試より卒業生のお嬢様の入学に關しては「入学金全額免除」制度や同窓生が推薦する高校生には「高等学校の指定校推薦」を受けた生徒と同等に取り扱う制度も設けられました。これもひとえに卒業生の皆様が本学を愛する気持ちに少しでも応えることができればとの思いから設けられた制度です。この制度を利用して入学生をお迎えすることは、本学にとつてはこの上ない喜びと感じております。

このような同窓生の皆さまはじめ、高校の先生方、そして地域行政や住民の方々のご理解とご協力のおかげをもちまして、マスクミでも大学生の就職難が多く取り上げられ、社会問題化している中で、本学卒業生の就職希望者ほぼ全員が希望にあわせて保育所や幼稚園などに就職しております。

また、昨今、大学・短期大学の入学者定員割れも大きな問題ともなっていますが、本学の入学者は定員を上回るものとなりました。ほんとうにありがたいことだと皆さまに感謝申しあげます。

これとて一朝一夕にできるものではなく、本学創設以来、卒業生の皆さまが社会や職場において活躍いただいているおかげだと受け止めております。卒業生の皆さまが創り、継承されてきましたこの埼玉純真短期大学の伝統を後輩たちも守り続けてくれるものと信じております。

嬉しいニュースです。本学園の本部があります福岡に、本年四月から新大学「純真学園大学(医療系)」が開学いたしました。現在、経済をはじめとして日本全体があまり芳しくない状況にあります。そのような中でも本学、そして本学園も新しい時代に向けて着実に動き始めております。

このような本学から皆さまにぜひお願いしたいことがあります。それは現在そしてこれまで社会で経験され積み上げてこられた「キャリア」という財産を、本学の学生にも分けていただけませんかということ。本学では保育・教育の授業の他に、「キャリアガ

イダンス」や「キャリアデザイン」といった授業も設けています。幼児教育関連の授業やこれらの授業で、ぜひとも皆さまが経験されたことを後輩の学生たちにお話いただければとお願ひする次第です。

最後に、本年も四月二十九日(金)三十日(土)の連休に、純真祭(大学祭)を開催いたしますので、ぜひとも同窓会への出席がてら、後輩たちの成果をご覧いただければとお願ひ申しあげます。

「友(朋)あり、遠方より来る。また集しからずや。」漢文で習った論語の一節です。

乳幼児保育学科第二部

(幼児教育学科第二部)が廃科に…。

二〇一〇年(平成二十二年)三月卒業生を最後に、乳幼児保育学科第二部(幼児教育学科第二部)の学科が廃科になりました。こちらの学科の前にも、二〇〇八年(平成二十年)三月に英語コミュニケーション(英語)学科が廃科になりました。このたびは、乳幼児保育学科第二部最後の卒業生の方々ともども学科元学科長松本先生よりお言葉をいただきましたので、ご紹介いたします。

子ども学科元学科長からのメッセージ

松本 隆

卒業生の皆さん、元教職員の皆さんお久しぶりです。私は短大を退職して四年になりました。相変わらず短大のすぐ近くに住んでいます。短大教職員のスタッフがすっかり変わってしまったので短大に顔を出すこともなくなりました。本年一月、秋桜会役員の方から「秋桜だより」執筆依頼があり、こど

も学科第二部が昨年三月に廃止になっていたことを始めて知りました。十九年三月に退職するときに二十年度は募集停止の方向だったので特に驚きもありませんでしたが、二部の卒業生にとつては驚きのことと思われ。本来、このような重要な件については大学側から卒業生に説明があつて然るべきだと思いますが、そうでなかったことはとても残念に思います。現教職員には二部について詳しく知る方がいないのも影響しているのかも知れません。

私が退職した後、学科長制度はなくなり、いわば私が最後の学科長であつたわけ。そんな関係で、私に執筆の依頼があつたと思いますので、簡単に述べたいと思います。

昭和五十八年四月に、幼児教育学科第二部は、昼夜開講の形で始まり。開学当初は曙ブレーキ、羽生三洋等の企業との連携があり、入学者は毎年三十名前後で推移して。しかし、平成の時代に入り、バブルの崩壊と共に企業の新規採用は減少し、平成十二年には最大協力企業の曙ブレーキが完全に撤退、入学者は一気に一桁台に減つてしまいました。当然、二部の存続については学科会において真剣に検討され、その結果、開学時から地元の要望が強かつたこと、働きながら学びたい生徒が少数ではあるが存在すること、教員にも情熱があること等の観点から、もう一度募集に力を注いでやってみようということになりました。

その後、入学者が二十名を超えるまでに回復しましたが平成十九年には再度一桁台に落ち込み、二十年からは募集停止となりました。28年間に渡つて約五百名近くの卒業生を輩出し、その多くが地域の子育て、教育、養護、介護等の現代社会が最も必要とする分野で活躍しているのを思うに、廃止の結論は誠に残念でなりません。

二部卒業の皆さん、在学中は慣れない仕事に耐え、授業中の睡魔と闘い、よく頑張りましたね。会社の寮に入っていた人は人間関係に悩み、体力のない人は腰痛に泣きました。お金のない人は退学も考え

ました。さらに、ピアノが弾けない、実習日誌が書けないと泣き、先生に注意されたと怒っている人もいました。でも今になって考えてみると、懐かしい思い出であり、当時の苦労は今もあなたの方の共有の財産となっているのではないのでしょうか。指導に当たった先生方も大変でしたが、やりがいを感じていた先生もいました。むしろ二部の担任を希望する先生もいました。まだ磨かれていない原石を磨いてみたくなるような、そんな魅力をあなたの方の中に感じたのでしよう。私の体育の授業は、学生の多かった時は運動能力の優れた学生が多く、とても活発でレベルの高い楽しい授業をすることができました。反面、クラス人数五、六人の年が何回もあり、この時は九十分を過ごすのに大変でした。特に夏場の暑い時は休憩時間の方が多かった感じがします。

仕事と勉学の忙しい合間をぬって部活動に活躍した学生もいました。バスケットには会社を休んで全国体育大会に参加した人、陸上部では、埼玉駅伝、羽生駅伝を走るため会社と短大の送迎バスに乗らず、練習のために走って通った人等、今も印象に残っています。厳しい現代社会を生き抜くためには、失敗しても挫けず、粘り強く耐えていく強い精神力が必要かと思えます。二部の卒業生は、その面の素養は十分に備えていると思います。どうぞ自分を信じて有意義な人生をお過ごしください。最後に、私の退職後二部の担当を最後までして頂いた先生方本当に有難うございました。感謝を申し上げて失礼いたします。

最後の卒業生からのメッセージ

「二部、廃科にあたり」

竹谷 紗織

昨年の四月から幼稚園教諭として勤務をし、年中の担任として子どもたちに接しています。子どもだ

けではなく、私自身も緊張や不安でいっぱいだった四月。最初はなかなか環境に馴染めなくて泣いてばかりいた子どもも、少しずつ友達との関わりや保育に慣れて笑顔が見られるようになりました。私のクラスは元氣いっぱい、個性あふれる子どもばかりで、毎日の保育はとても楽しいです。保育の仕事は人と人との関わりなので大変なこともあります。子どもたちの小さな成長に大きなやりがいを感じます。

現在の仕事をしていく中でも時々純真の友人と会い、互いに情報交換などをして高め合っています。本当に良い仲間にも恵まれました。これからも子どもたちが毎日幼稚園に来ることが楽しくなるようなクラスづくりを目標に、子どもたちの心の拠点となるような先生を目指していきたいと思えます。

「卒業してから」

菅原 歩

純真を卒業してから、もうすぐ、一年が過ぎようとしています。

この一年間は本当にあつという間でした。お泊まり保育や運動会、カーニバル・フリー参加などたくさん行事が目まぐるしく過ぎていきました。そんな毎日の中で子どもたちの成長を見ながら、私も少しは成長できたのではないかなと思っています。

今、私は0歳児の担任をしています。ミルクだけだった子どもが今は離乳食や給食になり、段々と自分で食べられるようになっていきます。そんな日々の成長を側で見られる私はとても幸せだなと感じます。また、一言も話せなかった子どもが今、私にむかって「せんせ」と話しかけてくれる、これが私が保育士になって本当に良かったと思う瞬間です。このような瞬間があるからこそ、この仕事が大変でも頑張れるのだと思います。

まだまだ保育士として未熟な私ですが、子どもたちの成長と共に、これからも成長していきたいです。

同窓会（クラス会）開催報告

下岡美幸さんより、クラス会開催の報告が届いておりますので、ご紹介いたします。

下岡さんたちのクラスは、今回で二回目の開催ということですが、一回目の開催についてもこちらの秋桜だよりでご紹介いたしました。それから、三年の月日が経ち、みなさんの状況も変わられた中での開催ということ、前回と違った思いがあったことでしょう。

〈八木田先生と十八年ぶりの再会〉

児童教育学科幼児教育学専攻A組

第九回生 下岡 美幸

平成二十二年十二月五日、三年ぶり二回目のクラス会を開催しました。

今回はどうしても八木田先生にお会いしたかった。八木田先生宅の近くの品川で開催しました。子どものお遊戯会や進路相談と予定が重なり、参加出来ない人もいましたが、八名の皆が集まってくれました。

中にはこの日のために新幹線で来てくれた人が二人もいて、感謝です。

十八年ぶりにお会いした八木田先生はお変わりなく、ただ今、絵本の製作中との事。もうまもなく完成するそうです。先生から私達へプレゼントをいただきました。

また、「立派な女性になりましたね」と、お褒めの言葉もいただきました☆



同窓会(クラス会)開催への支援について

秋桜会では、以前にもこちらの秋桜だよりでもご連絡させていただいているかと思いますが、同窓会(クラス会)を開催するにあたり告知用の往復はがき代(一〇〇円×クラスメイトの人数)についての費用負担をするという支援を行っています。こちらの支援を受けるための手続きは、左記のとおりです。幹事の方は、お気軽にお問い合わせください。

〈お問い合わせ方法〉

- 一、同窓会(クラス会)開催について、秋桜会事務局までご連絡ください。ご連絡については、下記の住所へ封書にてご連絡願います。その際、代表者の方の卒業期、学科(コース・専攻)、お名前、住所、電話番号、をご記入ください。
- 二、一の封書が届きましたらそこに記されている代表者の方へ「申請用紙」を送付いたします。
- 三、申請用紙がお手元に届きましたら、申請用紙と往復はがき購入の際のレシート、もしくは領収書、クラスの皆さんへ告知した内容の文書を添えてご返送ください。
- 四、ご返送いただいたものを確認後、現金書留にて送金いたします。

申 請 書

年 月 日

埼玉純真女子短期大学
秋桜会会長 小林 ひかり様

第 期卒業生 学科・専攻 _____

代 表 者 氏 名 _____ 印

住 所 〒 _____

電 話 番 号 _____

私たちは、年 月 日()に _____ についての同窓会を開催する予定です。開催にあたり、お知らせするための往復はがきを担任の先生、各個人宛てに発送しなければなりません。その費用として、
往復はがき 100円×発送人数 _____名=合計金額 _____円 となります。
上記、合計金額のご負担をお願いいたします。

以上

領 取 書

年 月 日

埼玉純真女子短期大学
秋桜会会長 小林 ひかり様

円

領：往復はがき代として

上記、金額を受け取りました。

第 期卒業生
学科・専攻 _____
代表者氏名 _____ 印

第二十九回純真祭開催と秋桜会総会のお知らせ

四月二十九日(金)、三十日(土)に純真祭が開催されます。秋桜会としましては、例年同様に「秋桜会総会」と「親子でふれあい遊び」を行う予定です。開催時間、場所は左記のとおりとなります。みなさんお誘い合わせの上、ぜひお越しください。多くの方々のご参加をお待ちしています。

純真祭開催日時

- .. 四月二十九日(金) 十一時～十六時(予定)
- 四月三十日(土) 十一時～十三時(予定)

テーマ

- .. Jump!!
- .. 未来に向かって

秋桜会総会

- .. 十一月十分～十一月三十分
- 親子とふれあい遊び .. 十一月四十分～十二月十分
- 開催場所 .. 一階の教室を予定しています。

「秋桜だより」の発送について

前回の秋桜だよりに「秋桜だよりの発行発送の変更についてのお知らせ」として記載しましたとおり、この秋桜だより二十二号からは、希望者の方のみへの送付とさせていただきます。新卒(その年の三月に卒業した方)新規秋桜会会員のみなさんへは、全員に送付いたします。次回からの会報送付希望の有無については、同封いたしましたはがきにてご回答ください。なお、大学のホームページ(卒業生のページ)へは、昨年同様掲載いたします。このような措置に至った理由としては、前ページの秋桜会会長の挨拶文の中にもありますとおり、印刷費、発送

料の経費負担が増え、秋桜会として運営するのが危ぶまれてしまうためです。会報発送くらいで経費が無くなるの?とお思いになられる方もいらっしゃると思いますが、毎年のこととなりますとかなりの経費負担となります。大学によっては郵送料負担をいただくとか、いろいろなケースがあるようです。長く秋桜会を存続させるための措置ですので、ぜひともご理解とご協力の程よろしく願っています。

埼玉純真短期大学のホームページからの閲覧方法は、トップページ↓卒業生の皆様へ↓秋桜会のページに入っていたくださいとご覧いただけます。

秋桜会からのお願い

◎お手伝いの募集について

私たち秋桜会では、一緒に会報作りや、役員の仕事を手伝ってくれる方を大募集しています。イラストを描くのが得意な方、文章を書くことが好きな方、趣味を活かしてみたいかがでしょうか?ご協力お願いいたします。

◎住所・氏名変更について

住所・氏名等が変更になられた方は、必ずお知らせ下さい。

なお、お手伝いいただける方、住所・氏名変更された方は、直接、秋桜会事務局までご連絡ください。

◎お問い合わせについて

この会報に記載されている全ての記事に関するお問い合わせについては、お手紙、もしくはハガキにて左記の住所へ送付願います。お電話でのお問い合わせはできません。回答することができません。回答には少々お時間をいただくこととなりますが、そのような方法でお願いいたします。ご協力の程よろしく願っています。

宛て先 〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬四三〇
埼玉純真短期大学「秋桜会事務局」